ここから

17歳で国立療養所菊池恵楓園に入所した吉山は24歳から絵筆を持ち始めた。絵を始めたきっかけを、当館で初めて菊池恵楓園絵画クラブ金陽会の絵画を紹介した展覧会（「光の絵画」2003年）の前に問うたとき、「明るく楽しく徹底的に生き抜いてやろう！と一種の開き直りから何か趣味を持ちたいと思って始めた」と語っている。菊池恵楓園は24歳の青年に「徹底的に生き抜いてやる！」と決断させる場所でもあった。

絵画クラブ金陽会のメンバーがひとり、またひとりとこの世を去っていく中、アトリエで絵を描くのが吉山ひとりとなったときの寂しさは想像を絶する。しかしその寂しさは、菊池恵楓園入所者以外の人々が吉山に絵を教わるためにアトリエに集いはじめたことによって徐々に解消され、吉山にとって新しい生きがいとなった。「みんなようしゃべるし、その声がさざ波のようだったから"さざなみ会"と名付けたんです」という吉山の照れ笑いは、金陽会のそれと明らかに違う。だからと言って、閉ざされた場所だった恵楓園で同胞らと長きに渡り描いてきた作品と、新しい仲間と共に描いた作品とで決定的な違いが観てとれるわけではない。吉山の描く作品の根底にある深い悲しみや憤り、残された者としての想いの蓄積は、静かにでも確かに流れ続けている。

ここで60年以上描き続けてきた吉山の作品から感じる強度は、菊池恵楓園という場所の持つ呪縛と今なお闘い続けている吉山の精神力といっていいのかもしれない。その呪縛は吉山が筆を置くその日まで解かれることはないのだろう。

今年86歳になる吉山は、絵を描くことで明るく楽しく徹底的に今を生き抜いている。

熊本市現代美術館 主任学芸員　蔵座江美

「郷愁」 2004　作家蔵　油彩、キャンバス　50.0x60.6cm

「陽だまり」 1991　作家蔵　油彩、キャンバス　60.6x72.7cm

吉山安彦
Yasuhiko Yoshiyama

アトリエでの制作風景

「昼下がりの光景」 2003　作家蔵　油彩、キャンバス　112.1x145.5cm

略歴

1929年生まれ
1945年　相浦海兵団志願、終戦と同時に帰郷
1946年　国立療養所菊池恵楓園入所
1953年　絵画クラブ金陽会発足　水彩画を始める
1956年　油絵を始める
1993年　熊本県美術協会会員
2000年　熊本県文化懇話会入会、創元会熊本支部入会
2001年　第60回記念創元展入選（以降、2005年まで連続入選）
2002年　熊本県美術家連盟会入会
2011年　第71回創元展（東京国立新美術館）会員

主な展覧会歴

1999年　吉山安彦展（熊本県立美術館分館）
2003年　「光の絵画」（熊本市現代美術館　ギャラリーⅢ）
2004年　「吉山安彦展」（画廊喫茶もかちい野）＊2014年まで毎年開催
2005年　「光の絵画 vol.2」（熊本市現代美術館　ギャラリーⅢ）
2007年　「ATTITUDE 2007」（熊本市現代美術館　ギャラリーⅠ、Ⅱ）
2010年　「光の絵画 vol.3」（熊本市現代美術館　ギャラリーⅡ）＊「舟越桂展」と同時開催
2015年　「吉山安彦展」（熊本市現代美術館　ギャラリーⅢ）

「牛骨の景」 2014　作家蔵
油彩、キャンバス　162.1x130.3cm

「松と太陽」 2013　作家蔵
油彩、キャンバス　72.7x60.6cm

熊本市現代美術館　http://www.camk.or.jp

CONTEMPORARY ART MUSEUM, KUMAMOTO －CAMK－

〒860-0845 熊本市中央区上通町2番3号 Tel:096-278-7500 Fax:096-359-7892